

2016. 9



(島根県道づくり調整会議)

道づくりだより 第103号



山陰自動車道建設促進島根県民総決起大会 '16

-Contents-

1. (主) 益田澄川線 (笹倉～下波田間) が開通しました!
～利便性や安全性が大幅に向上し、地域づくりを支えます～ (道路建設課)
2. 山陰自動車道建設促進島根県民総決起大会 '16
～山陰道の早期整備を求め決議!～ (高速道路推進課)
3. 「道の駅 奥出雲おろちルーフ」のトイレが新しくなりました!! (道路維持課)
4. (都) 松江熊野線 (新大橋工区) の事業について紹介します (都市計画課)

ますだ すみかわ さくら しもはた
(主) 益田澄川線 (笹倉～下波田間) が開通しました!
 ～利便性や安全性が大幅に向上し、地域づくりを支えます～

主要地方道益田澄川線は、益田市中心部の益田駅前を起点とし、国道191号を経由して、同市匹見町澄川地内の国道488号に接続する延長約20kmの幹線道路です。

本工区の笹波湖沿いの現道は、幅員が狭く対向車とのすれ違いが困難で、急カーブも多く交通の難所となっていました。

このような状況を解消するため、平成13年度からバイパス整備事業に着手しました。

この整備により、沿線地域の日常生活の利便性が向上するとともに、救急医療・消防活動の迅速化や災害時の迂回路機能強化、地域づくり活動の活性化も期待されます。

事業概要

位置：益田市美都町笹倉～同市下波田町
 延長：1,320m
 幅員：7.00m
 (車道2.75m×2、路肩0.75m×2)
 事業期間：平成13年度～平成28年度
 総事業費：約32億円
 主要構造物：笹波トンネル 629m
 山郡大橋 113m
 芦谷大橋 18m

日常生活の利便性向上
 救急・消防活動に貢献
 整備前に比べ
 約4分短縮

災害時の確実な
 ルート確保
 災害に強く
 迂回路機能も強化

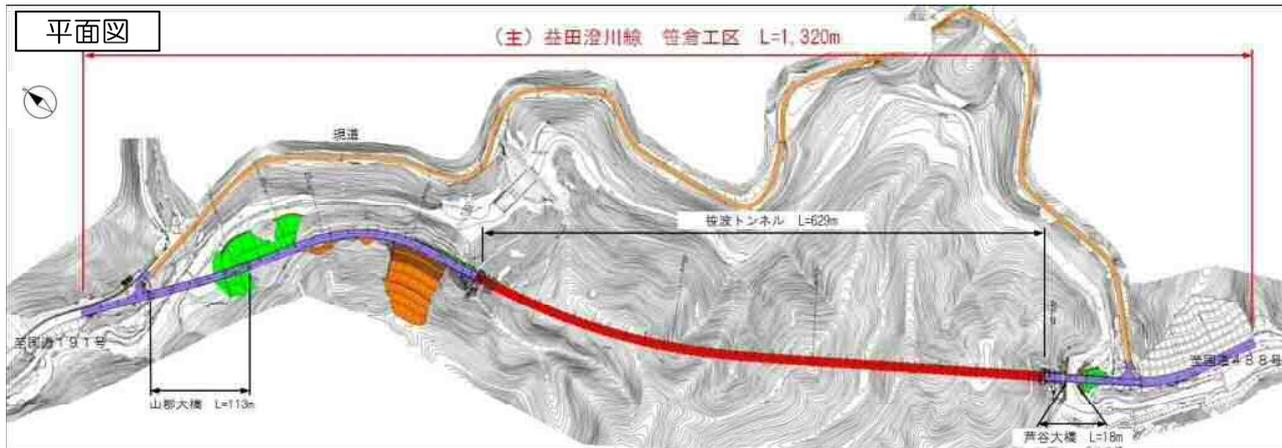
沿線地域の
 活性化を後押し
 真砂地区の「地域づくり」「人づくり」を下支え

位置図



9月19日に地元の主催により開通式が開かれました

平面図



【島根県益田市美都町笹倉～真砂地区】地域の安心安全を担う道路整備 ～(主)益田澄川線～

- 昭和60年代から道路整備を進め、真砂地区までの一連区間の2車線化を完了したことにより、益田市街地までの所要時間を約12分短縮され、救急医療活動に大きく貢献します
- 幅員が狭く、カーブの連続する交通の難所を回避することで、災害に強い安全な道路となり、孤立の危険も少なくなりました
- 生活依存度の高い益田市内と真砂地区とのアクセスの向上により、地域間交流や定住対策に寄与することを期待しています

【位置図】



【整備効果】



整備前

普通車同士でも気を使う幅員



整備後

2車線化で安全な通行を確保

【地域の声】

- ・ 土砂崩れや倒木の心配が無くなり、安心して暮らせるようになると地域全体で喜んでいる。
- ・ 地域のイベントに地区外からの参加を呼びかけ、もっと地域を元気にしたい。(真砂公民館 館長)
- ・ 走行性も良くなり、益田からの応援が迅速になると期待している。(益田市消防団 真砂分団 分団長)
- ・ バスの運行時も対向車に気を使って運転していたが、これからは運行管理も楽になる。(株)石見交通 運転手)

山陰自動車道建設促進島根県民総決起大会 ‘16

～山陰道の早期整備を求め決議！～

山陰道（安来～益田）の沿線市等で組織する山陰自動車道（安来～益田）建設促進期成同盟会主催の「山陰自動車道建設促進島根県民総決起大会’16」が、9月25日（日）に益田市（島根県芸術文化センター グラントワ）で開催されました。

県選出国會議員、知事をはじめ、多数の来賓が出席、一般参加者を含め約400人が参集し、山陰道の早期整備を協力を進めるため一致団結した。

大会では、「山陰道の2020年の全線開通」、「事業中区間の早期整備」、「未事業化区間の早期事業化。特に、小浜～田万川間の平成29年度新規事業化」を国に求める大会決議案が採択されました。



▲早期全線開通に向けガンバロー三唱



◀「山陰道の早期整備を！」

主催者を代表し、会長の竹腰大田市長は、平成20年以降に県内に進出した企業のうち、約9割が高速道路の沿線に立地している現状を挙げ、「山陰道の整備は地方創生の前提条件だ。」と訴えました。

▶「浜田・三隅道路の年内全線開通！」

竹下亘衆議院議員は、今年度開通予定の浜田・三隅道路の西村IC～石見三隅ICについて、工事が順調に進捗していること踏まえ「年内に開通することが可能となった。」と挨拶のなかで発言されました。



講演、意見発表で、「山陰道の整備は必要！」と訴え

筑波大学 石田教授は、「山陰道の全線開通は当然。そこに止まることなく、4車線化、下道との連携、活用の新展開を目指し、自信をもって前に進もう！」と講演を締めくくりました。

(株)テライ安富工場の田口業務課長は、「山陰道の整備と共に、業務の拡大を図り、安定した雇用を確保し、地元益田市とともに更なる成長をしていきたい。」と意見を述べました。



講師：筑波大学
石田東生教授
演題：
「高速道路と地域創生
～社会資本政策の
総合戦略とイノベーション」



発表者：
(株)テライ安富工場
業務課長 田口尊規氏
テーマ：
「(株)テライにおける
山陰道の活用について」

「道の駅 奥出雲おろちループ」のトイレが新しくなりました！！

島根県仁多郡奥出雲町八川にある「道の駅 奥出雲おろちループ」のトイレが新しくなりました。新しいトイレは洋式の温水洗浄便座で、赤ちゃんのおむつ交換も可能な多目的シートやベビーチェアも完備し、お年寄りからお子様連れでも安心して利用できます。



身体障がい者用駐車スペースはトイレ前に移動し、屋根付きとなりました。二輪車用の屋根付き駐車スペースも確保し、雨の日でも安心して乗り降りいただけます！



また、10月1日より、道の駅内の軽食コーナー、お土産コーナー、休憩所は施設改修のため、国道314号の向かいにある「鉄の彫刻美術館」へ移転いたします。リニューアルオープンは春の予定でしばらくの間、ご迷惑をおかけしますが、奥出雲町へお出かけの際はお立ち寄りください。

(トイレは常時利用可能です)

(都) 松江熊野線（新大橋工区）の事業について紹介します

松江の南北を結ぶ新大橋は、市街地の多くの交通を担う重要な道路です。1日に約2万台の車が行き交い、特に通学・通勤の時間帯は歩行者や自転車も多くなりますが、十分な歩道幅が無いため危険な状態です。

多くの市民が利用する新大橋ですが、建設から既に80年以上経過し、現在の耐震基準に合わなくなったため、歩行者や自転車の安全性向上と、災害時の緊急輸送を考慮した耐震化などを目的とし、大橋川改修の護岸工事にあわせて架け替えることとしました。新大橋の架け替えにあたっては、沿道への影響や工事中の影響に配慮し、大橋川の水辺づくりと調和を図り、「3代目新大橋」が皆さんに親しまれる橋になるよう検討していきます。

また、同様に耐震化が必要な鍛冶橋についても、交差点を改良し、歩道を整備します。

新大橋・鍛冶橋架け替えを含む 都市計画道路の整備を進めます

鍛冶橋の架け替えを行います

- 緊急輸送道路であるため、耐震基準を満たす橋へと架け替えます

耐震性の低い橋 → 耐震基準を満たす橋

新大橋の架け替えを行います

- 緊急輸送道路であるため、耐震基準を満たす橋へと架け替えます
- 水害に強いまちづくりを目指し、大橋川改修との整合を図ります
- 歩行者と自転車の安全を確保するため、歩道幅を拡げ自転車専用通行帯を設置します

災害時などの緊急輸送道路として活躍します!

国道431号に歩行者空間をつくります

- 車が安全に通行できるよう、交差点を改良します
- 歩行者の安全と渋滞緩和を目指し、歩道と右折レーンを設置します

曲がりにくい交差点をスムーズに!

1 交差点の改良

歩行者や車の安全を守ります!

右折車で渋滞が発生 → 右折レーン設置で渋滞解消

2 右折レーンの設置

3 歩道の設置

橋の耐震設計

耐震性の低い橋 → 耐震基準を満たす橋

1 橋の耐震設計

2 安全な歩行空間の確保

3 自転車専用通行帯の設置 (歩行者と自転車の分離)

全幅2.2m

歩道	自転車専用通行帯	車道	車道	中央分離帯	車道	車道	自転車専用通行帯	歩道
2.5~3m	1.5m	3m	3m	1~2m	3m	3m	1.5m	2.5~3m

自転車専用通行帯は一方通行(自動車と同一方向)

(都) 松江熊野線に関する情報誌「新大橋・鍛冶橋情報かわら版」は下記のURLからご覧いただけます

<https://ssl.pref.shimane.lg.jp/infra/toshi/keikaku/shimane/shinoohashi-kakekae.html>

